# テーマ

言語学における中日のIT用語比較

## なぜそのテーマを選ぶのか

現代社会では、学習や仕事などにコンピューターは欠くことができないようになっている。プロだけでなく、コンピューター用語は日常生活にも浸透してきた現状である。特に一衣帯水である中日両国は経済を含め、数多くのコミュニケーションを行っている上に、コンピューターを用いる場合がきっと多いと思われる。それで、日本語ができる、専門的なIT技術を持っている人材は数多くの中日関係の会社に求められている。

また、ITという言葉は英語の源である。中国人も日本人もこれを見ればすぐ分かるはずであるが、中日のIT用語は同じ英語の単語から訳され、日本語にはカタカナで表記した場合が多い、中国語には漢字で表記した場合が多いから、同じIT技術者でもお互いのIT用語を理解するはずではないと思われる。即ち、IT用語を訳す時に、日本語は棒読みでそのままカタカナで取り入れ、中国語は意味を取り漢字で書き直すという特徴がある。この大きな差に置き、もっと細かいことに取り組みたいと思う。言語学の視点からもっと語彙、文法、読み方の特徴を見出したいと思う。

また、中日両国の言語学習者に対し、非母語の専門語であるIT用語の習得は多少でも壁にぶつかることがあると思われる。この研究により、両国のIT用語の全体像だけでなく、細かいことを解明し、中日バイリンガルのIT人材育成に支援しようとする。

# そのテーマの基本文献

日経BP社（2011）『中英日電脳用語辞典』2011版　北京化学工业出版社

李 光済（2011）『日韓のIT用語比較--パソコン用語を中心に』　日本比較文化学会

濱田・深澤（2011）『日本語教育の観点から見た日本語のIT用語の特徴』　富山大学留学生センター

语料库在线　http://www.cncorpus.org

現代日本語書き言葉均衡コーパス　http://nlb.ninjal.ac.jp

# 現時点で予想される論文の章立て

1. はじめに
   1. 研究背景
   2. 研究目的
   3. 先行研究
   4. 研究方法

『中英日電脳用語辞典』に現れた語を対象に

アンケート、コーパス

1. 語彙における比較
   1. 語彙分類

漢語、和語、外来語、原綴字、混種語の定義

* 1. 語種ごと考察

各語種の割合により分析

1. 文法における比較
   1. 高頻度語

混種語を構成する要素の中で出現頻度が最も高いいくつかの語を抽出

* 1. 文法的な役割比較

「3.1」で抽出した語を対象にコーパスにより文法的な役割を研究

1. 読み方における比較
   1. 符号の読み方

キーボードに現れた符号を対象にアンケートをしてどのような傾向があるかを見出す

* 1. 数値の読み方

読み方の異なること

123を例に

日 中

ワン・ツー・スリー one two three

いちにさん 一二三

ひゃくにじゅうさん 一百二十三

主に専門語である数値が入った原綴字を対象に辞書を参照しながら、どの類の読み方を見出す

1. おわり
   1. 結論
   2. 今後の課題